



遠く永治元年(1141)、時の飛騨守時輔朝臣が、ある日片野山中で狩りに出て、奇瑞のことがあったので、その城をかまえていた石光山(今の高山市片野地内)に近江の日吉大神を勧請して、城の鎮護としたのがはじまりである。その後、四代目景家の時、養和元年(1181)正月、源義仲の部将手塚光盛に攻められ、利あらずして敗亡、社殿も兵火にかかって消失したが、幸いにして御霊体は災禍をまぬがれ無事奉安することができ、里人によって社殿は再興され、片野村の産土神として奉祀されていた。(今、この地を「元山王」とよんでいる。)幾多の年月を経て天正13年(1585)、金森長近父子が豊臣秀吉の命によって飛騨へ入国、諸将を平らげて国内を統一し、国守に封ぜられて、同14年、城を天神山(今の城山)に築いた。金森氏の祖は近江国で、代々日枝大神の崇敬が厚かったことなどから、慶長10年(1605)、片野より現在の地へ奉遷して城の鎮護神とし、社地と社殿を寄進造営、社僧松樹院を置いて片野、高山南半分の産土神に定められた。かくして金森氏歴代100余年間、城主の崇敬あつく度々の社殿の改築修造が行われてきた。今に残る社殿の棟木、神輿等に見る国守の紋所梅鉢はじめ金森長近公愛用の陣羽織及び刀等にもそれを伺うことができる。元禄5年(1692)、城主移封となり、徳川幕府の直轄となってからも、歴代の代官・郡代の尊崇あつく、度々社殿の修築、参詣があった。明治以後は郷社を経て昭和に県社となり、一般に『山王さま』と親しまれ、氏子数2700戸はじめ高山市民の尊崇を集めている。



0001\_参道



0002\_参道



0003\_参道



0004\_参道



0005\_参道



0006\_参道



0007\_参道



0008\_境内



0009\_境内



0010\_境内



0011\_境内



0012\_境内



0013\_境内



0014\_境内



0015\_境内



0016\_境内



0017\_天満神社



0018\_天満神社



0019\_天満神社



0020\_天満神社



0021\_富士社殿



0022\_富士社殿



0023\_富士社殿



0024\_富士社殿



0025\_富士社殿



0026\_富士社殿



0027\_富士社殿



0028\_富士社殿



0029\_富士社殿



0030\_富士社殿



0031\_山王稲荷神社



0032\_山王稲荷神社



0033\_山王稲荷神社



0034\_山王稲荷神社



0035\_手水舎



0036\_手水舎



0037\_手水舎



0038\_拝殿



0039\_拝殿



0040\_拝殿



0041\_拝殿



0042\_拝殿



0043\_拝殿



0044\_拝殿



0045\_拝殿



0046\_拝殿



0047\_拝殿



0048\_日枝神社の大スギ



0049\_日枝神社の大スギ



0050\_鳥居



0051\_鳥居



0052\_鳥居



0053\_鳥居



0054\_鳥居



0055\_鳥居



0056\_鳥居



0057\_鳥居



0058\_鳥居



0059\_鳥居